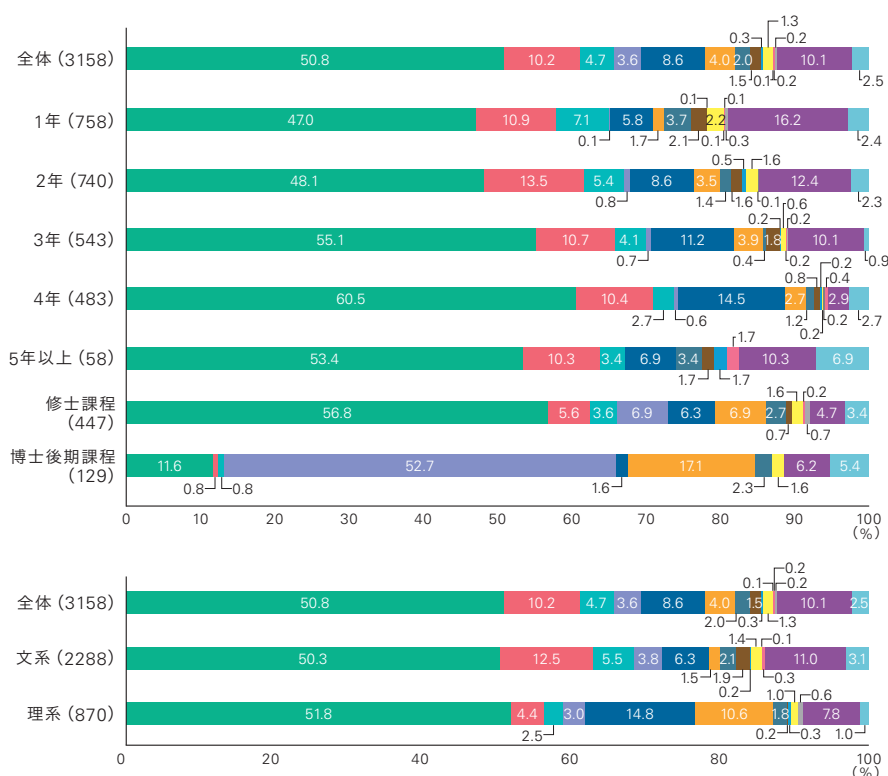


第2章 将来設計 (キャリアプラン) について

本章では、将来設計に関する意識の変化や悩み、キャリアプランを考える上での課題の調査結果をまとめました。

卒業・修了後の進路はどうしたいと考えていますか？

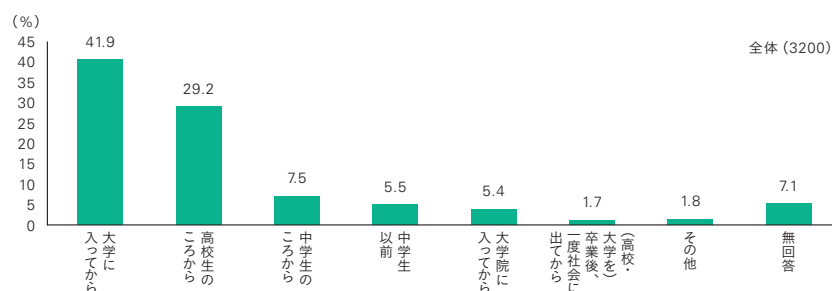
(学部学生・大学院学生)



大学院学生を含めた集計結果では、卒業・修了後の進路が「未定」という回答は10.1%です。2014年5月中旬から6月中旬の時点で卒業後の進路が「未定」という学部4年生の回答では、2.9%という結果です。学年が上がるにつれて民間企業志望者が増えており、さらに、文系の学生が「公務員」を志望する割合は理系(4.4%)に対して約2.8倍(12.5%)です。これに対して理系の学生が「大学院進学」を志望する割合は文系の約2.3倍(14.8%)、「研究所・シンクタンク」を志望する割合は文系の約7倍(10.6%)です。

進路を考え始めたのはいつごろですか？

(学部学生・大学院学生)

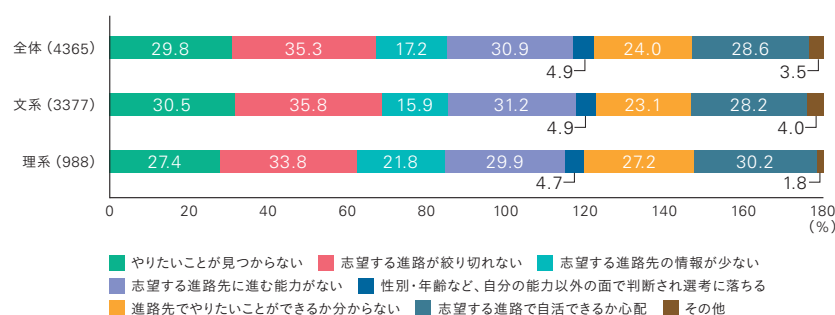


進路を考え始めた時期は「大学に入ってから」が41.9%と最も多く、次いで「高校生のころから」が29.2%、両方合わせると71.1%を占めています。

将来の進路についてどのようなことが不安になりますか？

(主なものを2つまで選択)

(学部学生)

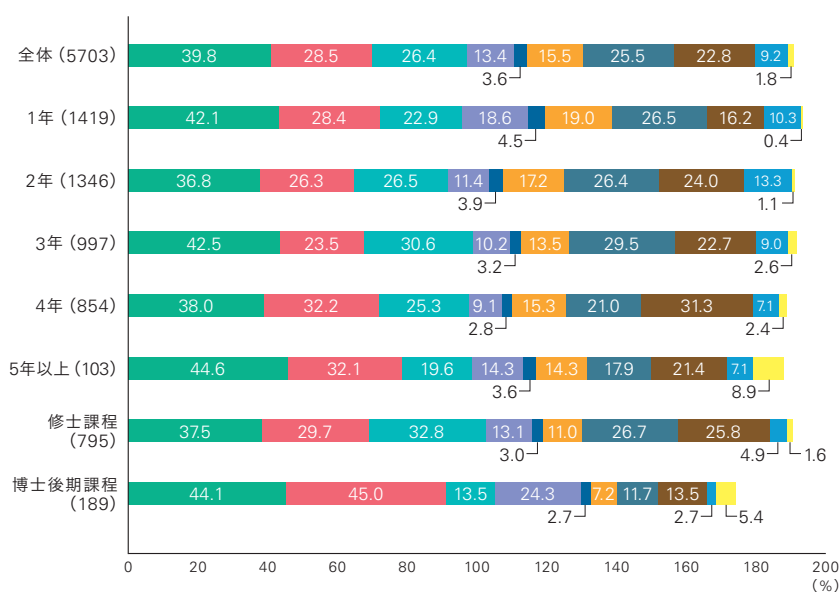


全体的に見ると、多い順に「志望する進路が絞り切れない」「志望する進路先に進む能力がない」「やりたいことが見つからない」という結果でした。

文理別では、理系に対して文系は「やりたいことが見つからない」「志望する進路が絞り切れない」などが多く、文系に対して理系は「志望する進路先の情報が少ない」が5.9%も多い、21.8%という結果でした。

将来設計について、どのような情報・サービスを大学から提供してほしいですか？

(主なものを2つまで選択)
(学部学生・大学院学生)

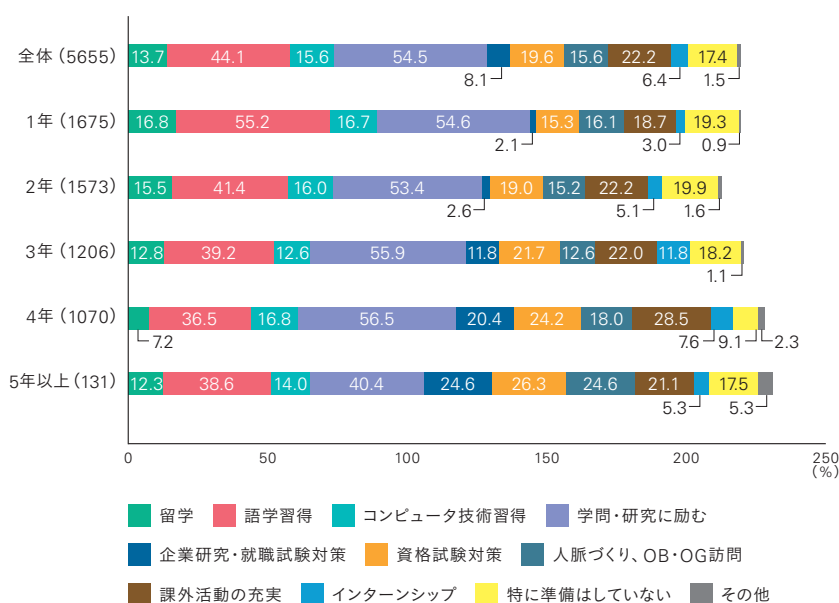


全体で見ると、将来設計に関して大学から提供を希望する情報は、「キャリアプラン設定のアドバイス・教育」が最も高くなっています。2012年度のデータと比較すると、1、2年生で「資格取得」「企業情報」を求める割合が高くなっており、それらに対する関心が低学年で高まっていることが見て取れます。

キャリアプラン設定のアドバイス・教育
キャリアプラン実現のための大学教育の利用方法
インターンシップ
留学
ボランティア
資格取得
企業情報
OB・OGの進路に関する情報
公務員情報
その他

将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？

(主なものを3つまで選択) (学部学生)



多い順に「学問・研究に励む」「語学習得」「課外活動の充実」という結果でした。高学年になると、「企業研究・就職試験対策」を厚くしている人が多く、「インターンシップ」は3年生での割合が最も高くなっています。4年生になると「課外活動の充実」が最も多くなるのは、就職活動などが終わって、学生生活を楽しむ人が増えるからかもしれません。

また、高学年において「コンピュータ技術取得」の割合が高いのは、社会に出る前に、業務に役立つ力を磨いておこうという学生が多いことを示しているのかもしれない。

学部学生で卒業後の進路が「未定」の回答の割合が低いのは、入学当初から進路に対する意識や関心が高く、自分のキャリアを検討している学生が多いことや、社会に出ることへの関心の高まりを示しています。その一方で、将来の進路に対して不安に思うことを見てみると、「志望する進路が絞り切れない」「志望する進路先に進む能力がない」が多く、進路選択やキャリア形成に必要な能力を磨くことに悩んでいる学部学生が増えていることがうかがえます。やりたいことを見つけて、自分の志望する進路に進んでいく能力を磨くためには、可能性に果敢にチ

ャレンジしていくことが重要です。

キャリアセンターでは低学年から、進路選択の検討に役立つさまざまな情報を提供し、相談にも応じていますので、これらを積極的に利用することをお勧めします。

Waseda Vision 150では、核心戦略「グローバルリーダー育成のための教育体系の再構築」関連プロジェクトとして、「留学経験者キャリア支援の強化」を設定しています。帰国後の就職支援イベントを開催したり、留学中に就業体験を積めるようなプログラムなどが計画されています。